
契約少女ながれ パクトウム

トリガープル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

契約少女ながれ パクトウム

【Nコード】

N8755U

【作者名】

トリガーブル

【あらすじ】

地球に送り込まれた少女の姿形のインキュベーター。特殊な待遇の彼女には他には見られない感情があった。そんな彼女が人との触れ合いからそれを学び変わっていく・・・そう言う物語。

・契約開始・（前書き）

初投稿です。

「わけがわからないよ（笑）」な感じかもですがよろしく願います（オイ

- 契約開始 -

場所：?????

< 良いかい？キミの使命はとても重大なことなんだ、それを忘れてはいけないよ。だからせめてもう少し手早くしっかりと取り組んでくれないかなあ？>

「はいはい、わかりましたよ。そう急かさないでください。」

< ……どうもキミが納得している様には聞こえないんだけど……まあちゃんと果たしてくれるならそれで構わないんだけどさ。……頼むよ？>

「わっかってますっば。」

< じゃあ、早く仕事に戻ってくれ。ボクはボクで忙しいから。>

「……。」

はいはい、仕事ね仕事……ったく話が長い上司（の様なもの）ほど煩わしいものはない。

（正直気が乗らない……他の個体が羨ましい……。）

インキュベーター……現在私にいる惑星である地球の外からやって来て、エネルギー回収のために第二次性徴期の少女と契約し魔法少女にし……魔女へと変貌するまで監視を勤める……そう言う存在だ。

そして、理屈からいけば私もソレの類であるはずなのだが……。私は人の形……。それも契約対象の少女ぐらいの姿形すがたかたちであり、少しだが感情らしいものが芽生めえていた……。ほかの個体はまずこんな形にはならない、絶対に……。それゆえに初の人型として残されて、他の個体同様地球に送られて今に至るといっわけなのだ。

「……。なんで……。私だけ……。」

しかしこの言葉は誰の耳にも届かない……。
……。エネルギーを回収せねばまた何を言われるかも分からないので、とりあえず行動を起こそう。

「できるだけ……。早く終わるように弱そうな子を探すか……？」

どーせその場しのぎの考えでしかないだろうけどさ……。

- 契約開始 - (後書き)

導入はこれで終わりです。次から本編を完全開始です。

不定期かと思いますが、暇さえあれば投稿する気ですので頑張ります。

感想、質問、そして改善点など御座いましたら包み隠さずお願いします。

私と友達になってくれる？(前書き)

記念すべき第一歩であります！

私と友達になってくれる？

場所：公園

「・・・ハア・・・」

ため息、もはや何度目だろう。

正直何もかもが嫌になっているんだ、私は。

私の名前は愛世^{まなせ}、朽木愛世^{くちき}。

本来なら中学校に通い、友達に囲まれながら楽しい日々を過ごしている年齢である。

しかし、私はそうはならない。

両親は交通事故に巻き込まれ死亡してしまい、引き取ってくれる親類もいない。

やむなく私は孤児院へと送られた。孤独だがそれは他の孤児だって同じ、そう思えば少しは

耐えられる、まだいい。

だけど、入ってからというものの古参の子達は死んだような目をして私をまるで相手にしてくれず。

神父さまは孤児たちを人とは見ず、明らかに必要以上のキツイ労働を強いてくるのだ。

心も身体も・・・ボロボロだった。

気がつけば私は逃げ出していた。アテはない、ただあの場所から逃げ出したかった。

そして・・・今の状況なんだ。

「・・・ハア・・・」

勢いで逃げ出したけど、私には・・・もう何も無い。

もういつそ・・・そんな風に考えた時・・・。

<死ぬのかい？>

声が聞こえた。近くからではない。

どこか遠くから言われたかのようなそんな声が聞こえた。

「・・・だれ!？」

<そんな大声出さなくても大丈夫よ。私には聞こえる。>

(遠くからなのかと思ったけど近かったのかな?)

そう思い私は周りを見渡すと、おもむろに声の主らしき人物が目の前に映った。

「・・・うわぁ・・・。」

人形ではないかと思うほど整った容姿。白く綺麗なロングヘア。光が当たり輝く青い瞳がとても印象的な少女がそこにいた。

「うわぁ・・・って何さ？」

「いや、その・・・急に出てきたからびっくりしたというか。」

「ああ、そう。」

・・・あまりにも素っ気無さ過ぎる。いやいや、孤児院の子達に比べれば遥かにマシだね。

「それで・・・本気で死ぬ気なのかい？」

「・・・私には、もう何も無いの・・・だから・・・。」

「・・・ふん・・・。」

「・・・。。。」

「……………」

「……………（え？聞くだけ？）」

「ねえ。」

「え……………」

「一つだけあなたの望む願いを叶えてあげようか？」

「……………え？」

「だから、私があるあなたの望むことを一つ叶えてあげるって言ってるの。」

「望むって……………まさかなんでも！？」

「そう。」

何を言ってるんだこの子は。

「じゃあ、お金を頂戴って言ったら？」

「あなたの望んだだけお金が手に入るでしょうね。」

「……………本気で言ってるの？」

「うん。ただし条件はあるけど。」

「条件？」

「そう、条件。」

「どんな？」

「それには今は答えられないな、あなたが本当に私を信じるというなら教えても良いわ。」

この子の言うことを信じていいんだろうか……………。

でも、正直言つとどうなってもいいと考えていたんだ。死のうとさえ一瞬過ぎった。

なら、もう別に良いんじゃないかな？信じちゃっても。

「うん、わかった。信じる。」

「……………うん、良いでしょう。じゃあ言うわよ。条件は魔法少女に

なること。以上。」

「・・・え！？魔法少女！？」

「そうよ、そして魔女って化け物と戦ってもらいわ。」

は、話が滅茶苦茶だよ・・・でもいたってまじめにこの子は言っているように見えるなあ。

「さあ、どうすんだい？」

いまさら何を迷うことがあるのか・・・。

「分かった。なるよ、魔法少女に。」

「おう？嫌にあっさりだね。いや私としてはありがたいんだけどさ。」

「もう人生に後がない私は神様でも悪魔でもすがりたいんだよ。」

「ふむ・・・じゃあ願いを言っつて、叶えてあげよう。」

「・・・。。。」

お金、食事、家・・・正直どれか一つだと功をなさないものばかり・・・。

それじゃあだめだよ、もつと何か・・・。

・・・ん？何でも良いんでしょ？じゃあこう言っつのもアリなのかな？よし、試してみる価値はあるかも！

「決めたよ。」

「ほう、思ったより決断が早いね。で、どんな願い？」

「・・・私と友達になってくれる？」

「!?!?」

その瞬間、目の前の少女は目を大きく見開き明らかな驚愕の表情を

見せたのだった・・・。

私と友達になってくれる？（後書き）

今回はここまでです。

次回は主人公のインキュベーターさんの視点になります。

感想、質問、そして改善点！何か御座いましたらドシドシお願いします^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8755u/>

契約少女ながれ パクトゥム

2011年10月8日21時44分発行